

東京バッハ合唱団 月報

[第557号] 2008年11月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.557
November 2008

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

《クリスマス・オラトリオ》の原曲、 カンタータ第214番《太鼓よ鳴れ ラッパよ響け》

大村 恵美子

教会の礼拝で演奏されたバッハの教会カンタータにくらべて 教会外のおさまな機会に 特定の人に対する表敬、祝賀、追悼などの記念に作曲された(ただ献呈されただけで、演奏されなかったものもある)、いわゆる世俗(ドイツ語 weltliche, 英語 secular)カンタータが、不当に軽んじられ、演奏されることが少ないと感じるのは、私だけではないでしょう。

私たちの合唱団も、教会カンタータだけで一生かかっても全部は演奏しきれない分量なので、ついつい世俗カンタータを横目に見ながら、一旦これに手をつけ始めると收拾がつかなくなりそうだと、自制してきました(過去に定期公演でとりあげたのは BWV207《鳴りかわす楽の調べよ》と BWV215《頌め歌え 幸なるザクセン》の2曲のみ)。

けれども、作品そのものとして見るとき、これらの世俗作品(24曲が現存し、記録や残された歌詞から推して全52曲の存在が推定されるという)も、バッハの創作意欲を十分かきたて、それぞれに趣向をこらしてしっかりと作られたものなので、バッハという人間のより広い相を知るうえで、たいへん興味のあるものといえます。神がよしと肯定したうえで成り立つこの世の哀歎を、信仰に生きる身ならばよりいっそう深く受けとめることは、現代においてますます重要な心構えではないでしょうか。

長年《クリスマス・オラトリオ》を歌いつづけてきた私たちにとっては、その前身であるこの BWV214 に、まさきに目が向けられるのは当然のなりゆきでしょう。今回(第103回定演)は、さらに《クリスマス・オラトリオ》と比較して味わいたい、と思われる方々のために、アンコールの代わりとして、たった1曲ではありますが、第1部の冒頭合唱をコンサートの最後に演奏することにいたします。

世俗カンタータで、バッハは、多くの場合、古代ギリシャ・ローマのよそおいに擬することがあり、この BWV214 でも、ザクセン選帝侯妃マリア・ヨーゼファの誕生日を

祝うのに、女神たちを4人の独唱者にふりわけ(戦いの女神ペローナ:S, 学芸パラス:A, 平和イレーネ:T, 声望ファーマ:B), 冒頭と終結を合唱で枠づけしています(作詞者不詳)。

主要部分をなす合唱とアリアは、ほとんどすべてが、この翌年に演奏された《クリスマス・オラトリオ》のなかに生かされています(下表参照)。

[歌詞と曲ごとの解説は、次ページにつづく]



ザクセン選帝侯妃、兼ポーランド王妃マリア・ヨーゼファ 神聖ローマ皇帝ヨーゼフ 世の長女として、1699年12月8日ウィーンで生まれた。1719年ザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト 世(強王、ポーランド王アウグスト 世)の息子フリードリヒ・アウグストとウィーンで結婚。1757年11月17日ドレスデンで死去。夫は1733年侯位を継ぎフリードリヒ・アウグスト 世、1734年にポーランド王に即位(アウグスト 世)。バッハは BWV191 の原曲(「ドレスデン・ミサ」、後の「口短調ミサ曲」の一部)を献呈(「月報」前号に解説)。BWV213(下表参照) 献呈の皇太子は3男(1722年9月5日生まれ、後1763年1年のみ選帝侯位を継承、同年死去)

BWV214 《太鼓よ鳴れ ラッパよ響け》(1733年12月)	BWV248 《クリスマス・オラトリオ》(1734年12月~35年1月)
1. 合唱 太鼓よ鳴れ ラッパよ響け	1. 合唱 喜べや この佳き日を (部冒頭)
5. アリア(A) 気高き わがミュージョ	15. アリア(T) 牧人らよ 行けやゆけ (部)
7. アリア(B) われらが冠りなる王妃よ	8. アリア(B) 大いなる主よ 君よ (部)
9. 合唱 ザクセンの菩提樹よ 花咲け	24. 合唱 あまつ君よ 聞きたまえ (部冒頭)

他に BWV213 《岐路に立つヘラクレス》(1733年9月5日、ザクセン皇太子の誕生日祝賀用)からも、以下の各楽曲が《クリスマス・オラトリオ》に転用されている: 1 BWV248/36, 3 BWV248/19, 5 BWV248/39, 7 BWV248/41, 9 BWV248/4, 11 BWV248/29.

カンタータ第214番《太鼓よ鳴れ ラッパよ響け》
»Tönet, ihr Pauken! Erschallet, Trompeten!« BWV 214

[歌詞] (大村恵美子・訳詞)

音楽劇[女神たち]

S:ペローナ 戦い, A:パラス 学芸, T:イレーネ 平和, B:ファーマ 声望

1. 合唱 … 女神たち

太鼓よ 鳴れ ラッパよ ひびけ
弦よ 澄みて 大気 みたせ
うたえや 晴れやかなる 歌を
王妃よ とわに 幸あれ
王妃よ 幸あれと われら 希(ねご)う
とわに 幸あれと とわに 花咲けよと

旋律:《クリスマス・オラトリオ》第1曲(第 部 冒頭)に転用

2. レチタティーヴォ (テノール) … イレーネ 平和

今日こそ
喜びに 満つべし
光り 輝く
王妃 誕生の よき日
われら みな
大いなる 幸に 浴したり。
オリーブの
木は 豊かに
枯ること なければ
嵐も ああ いかでか 怖れん

3. アリア (ソプラノ) … ペローナ 戦い

吹け さやかなの 笛を
百合(ゆり)も 月も あからむまで
とどろかせよ 高らに 歓呼の 凱歌(かちうた)を。
勇め 戦いの場に
喜び ついに おとずれ
身も ころも はずむ

4. レチタティーヴォ (ソプラノ) … ペローナ 戦い

大気を ふるう
大砲(おおづつ)の
激しき 音 飛び立ち
勝利に おわる。
この 喜びに
こころ 動かさる。
若人(わこうど)らの
足並み あざやかに
いよよ 飾り立てん
大いなる 今日の
あふるる 喜びを

5. アリア (アルト) … パラス 学芸
気高き わが ミューズよ
世慣れたる 歌 ならず
この日の ために
新たな 歌を そなえよ
喜びに みたされ
いざ 歌いたのしめ

旋律:《クリスマス・オラトリオ》第15曲(第 部 第6曲)に転用

6. レチタティーヴォ (アルト) … パラス 学芸

われらの 王妃は
天よりの 遣い
ミューズの 護り。
ミューズの 子らは
裳裾(もすそ)に 口づけ ささげ
わざもて 絶えざる 幸
ねがい 祈る。
王妃こそ
われらの 喜び なれかし

7. アリア (バス) … ファーマ 声望

われらが 冠りなる 王妃よ
み名 あまねく
世に 高し。
その身に 備わりたる いと高き 徳こそは
神より ゆたかに
授かりし 賜物(たまもの)

旋律:《クリスマス・オラトリオ》第8曲(第 部 第8曲)に転用

8. レチタティーヴォ (バス) … ファーマ 声望

わが口に 満てる
王妃の 讃歌(ほめうた) 地に ひろまれ。
星 きらめく
空の 極みまで とどけ
み護りは つねに
われらが 王妃の 上に あれかし
かくて 久しき 民らの 願いは
果たされん
永く われらと 留まれ
み空の
星の もとに 帰るまで

9. 合唱 … 女神たち

(テノール) … イレーネ 平和
ザクセンの 菩提樹よ 花咲け かくわしく
(ソプラノ) … ペローナ 戦い
勇め 戦いの 場に
(アルト) … パラス 学芸
歌え ミューズよ まるやかに
(全4声部)
喜ばしき この時よ
黄金(こがね)なす うるわしき 日
王妃よ 幸あれ とわに

旋律:《クリスマス・オラトリオ》第24曲(第 部 第1曲)に転用

[解説]

機会：ザクセン選帝侯妃兼ポーランド王妃マリーア・ヨーゼファの誕生日祝賀（1733年12月8日、ライプツィヒ）

原詞：作者不詳

1. 合唱 … 女神たち

8分の3拍子、フルオーケストラの前奏で、それこそテクトどおりに、太鼓が鳴り、ラッパが響き、弦が大気を満たし、はれやかな歌を合唱が始めます。《クリスマス・オラトリオ》では、神の子の誕生の佳き日を祝うためですが、ここでは王妃の誕生日（マリーア・ヨーゼファ34歳）を祝うためです。神の子と王妃をパラレルに扱うのに抵抗があるとしても、王妃の徳の高さをほめ讃えるのであり（7.アリア）、王妃がわれらと共に長らえるのも、み空の星のもとに帰るまで（8.レチタティーヴォ）と、わきまえています。

バッハが原曲の歌詞を替えて、新しい音楽作品とする場合（この手法を「パロディー＝転用」と称します）、世俗作品から教会音楽に取り入れられるので、その逆ではないことが特徴です。地上の生が昇華して神への讃美に流れこむ、この方向づけが、本来のバッハの立ち位置だったのです。教会音楽といっても、神のほうから授かりくださった聖なるものではなく、あくまでも才能をあたえられた人間の側の希求に発するものというところです。バッハの2大作品《口短調ミサ曲》も《クリスマス・オラトリオ》も、バッハの生涯をかけて探求したこの世の真実の集大成なのです。

2. レチタティーヴォ（テノール）… イレーネ 平和

《クリスマス・オラトリオ》で、イエスの生誕物語を受けもつエヴァンゲリスト（福音書記者）は、ここでは4人の女神が口々に王妃を讃える場となっています。なお 戦い 学芸 というハードな役割が女声（S,A）に、平和 声望 というソフトな役割が男声（T,B）に充てられているのも、意表をついたバッハのアイディアでしょうか。

3. アリア（ソプラノ）… ベローナ 戦い

このアリアだけ、なぜか《オラトリオ》に転用されていません。2本のフルートとともに、戦い の女神が、この日は優雅な3拍子の舞曲を歌います。

4. レチタティーヴォ（ソプラノ）… ベローナ 戦い

第2曲のテノールのあとは、ソプラノ、アルト、バスが、アリア・レチタティーヴォと、通常とは逆の順で2曲ずつ歌います。

この第4曲では、ソプラノは 戦い の女神の本領を発揮して、大砲の轟き（通奏低音）をとめないながら、勝ちいくさを誇ります。国家をたたえるのに、軍備の優越を重視しないではいられないのは、嘆かわしいことながら、今日に至っても世界の現実ではあります。

5. アリア（アルト）… パラス 学芸

《オラトリオ》では、フルートとテノールで演じられる

第103回定期演奏会

12月13日（土）14:00 開演

杉並公会堂（荻窪）

カンタータ第122番（新たのみどりご 小さきわがイエスは）

カンタータ第214番（太鼓よ鳴れ ラッパよ響け）

カンタータ第75番（貧しきものは 食し）

カンタータ第191番（グロリア 高き天なる神に）

光野孝子 S、佐々木まり子 A、鏡 貴之 T、小原浄二 B

草間美也子 org

東京カンタータ室内管弦楽団 orch、東京バッハ合唱団 chor

大村恵美子 / 橋本眞行 cond

入場料：3000円（全席自由席、当日券あり）

チケット取扱い：合唱団事務局

後援会員のみなさま

8月に、定演チラシ・ヨーロッパ演奏旅行ご案内などとともに、「招待状」を2枚ずつ同封させていただきました。

今回は、昨年の《マタイ受難曲》と同じ広い会場ですので、ぜひ多くの方のご来場をいただきたく、お知り合いの方などお誘いいただければ幸いです。

ものが、ここではオーボエ・ダモーレとアルトによって演じられます。この日のために新しい歌をそなえよ、と 学芸 の女神パラスが、ミューズ（詩想の女神）に依頼します。フルートとテノールとで、羊飼いたちに急いで御子に会いにゆくよう促す《クリスマス・オラトリオ》の歌にくらべて、ここでは、王妃のためにふさわしく、オーボエ・ダモーレとアルトの、ふくよかな喜びを表わしています。

6. レチタティーヴォ（アルト）… パラス 学芸

5.の大アリアのあと、同じパラスが、王妃こそはミューズから遣わされた方、と弦合奏とともに称揚します。

7. アリア（バス）… ファーマ 声望

このアリアは《オラトリオ》の場合とほぼ同じ気分で、トランペット1本と弦合奏、通奏低音の勇ましい2拍子のリズムにのって、バスが、世にひろまりわたる王妃の 声望 を、高々と歌いあげます。

8. レチタティーヴォ（バス）… ファーマ 声望

フルート2本、オーボエ2本と通奏低音とともに、バスが王妃の長寿と栄えを祈願します。

9. 合唱 … 女神たち

《オラトリオ》で第3部の冒頭合唱となるこの終曲は、8分の3拍子のジークのリズムで、フルオーケストラとともに、ザクセン侯フリードリヒ・アウグスト治下のライプツィヒ＝ザクセンの菩提樹（地名Leipzigは、スラヴ語のLibzi「菩提樹」に由来）が繁栄し、王妃の幸せがつづくように、と歌いかわして終わります。第7曲アリアのほかの合唱・アリアの全曲が3拍子の舞曲調で、かげりのない歓呼の音楽としては、史上でも最上のものと言えましょう。

来年度は、定期演奏会を順延。 代わりに教会で

～ 夏のドイツ公演に全力を傾注 ～

大村 恵美子

第 103 回定期演奏会まで、あと 1 月となりました。最後の仕上げに余念がありません。“クリスマスに、カンタータの 4 つの贈り物”、どれも珠玉の名作ぞろいです。ご期待ください。

さて、世界経済を混乱に落とし入れたアメリカ発の金融危機は、この小さな合唱団にも影響を及ぼしています。今年に入ってから、ご本人の健康状態やご家族の介護等で、何人かの退団・休団者がつづきましたが、12 月の演奏会が目前に迫ったこの秋になって、合唱団をいままでどおり続けたい団員のなかにも、地位や収入が急に不安定になって、出演を断念せざるをえない方が現われだしたのです。

10 月最終の土曜日、月例の相談会があり、12 月定演の収支予想が検討されましたが、出演者の減少のため団員の参加負担費収入も激減し、したがって、かなりな額の赤字が見込まれるとのことでした。

この日の団員相談会では、参加団員数の増加が見られないなかで、従来の演奏会の規模を維持するための、団員 1 人当たりの負担額は相当なストレスになっている…。今回の赤字を持ち越したままで、来年 5 月に予定されている第 104 回定期演奏会を迎えることには危惧をいただく…。来年は合唱団の一大事業であるヨーロッパ演奏旅行が予定されており、これの実現に向けてもさまざまな準備が必要だ…と全員真剣な討議がなされました。

たまたま、来年の 5 月には、定演の日取りに接近して、荻窪教会（日本基督教団）より、ドイツ公演のプログラムによるコンサートのご依頼が入っていましたので、それを活かしつつ、つぎのような、思いきった活動の変更が決定されました。

2009 年 5 月 2 日予定の第 104 回定演は、順延する。

荻窪教会で、5 月 17 日（日）に特別演奏会を行う。

- [ソプラノ独唱、合唱、フルートとオルガン伴奏による]
- ・カンタータ第 8 番《み神よ わが死はいつ》
- ・カンタータ第 131 番《深みより 主よわれはなれを呼ぶ》
- ・宗教歌曲（BWV446, BWV507, BWV479, BWV440）
- ・ミサ曲より Kyrie, Gloria (g-Messe BWV235), Sanctus (h-Messe BWV232)

来年 12 月公演も規模を縮小、世田谷中央教会で開催。

[オルガン伴奏による《クリスマス・オラトリオ》抜粋など]

毎年のクリスマスシーズンには、今年の曲目と同様、金管楽器やティンパニをふくむにぎやかな編成の、オラトリオや教会カンタータをお届けしてきましたが、来年度は一休みさせていただき、いつも練習会場を提供くださっている世田谷中央教会（日本同盟基督教団）の礼拝堂をお借りして、オーケストラなしの《クリスマス・オラトリオ》抜粋などを上演することにいたします。これは、ヨーロッパ

演奏旅行参加団員の諸負担軽減のために、以前より予定していたものですが、あわせて、同教会の近い将来の会堂建築の応援にもなればと計画しているものです。

という次第で、来年度は、コンサートホールでの定期演奏会がなくなります。とくに毎回のご招待を約束している後援会員の皆様には、事情をお察しいただき、お赦しをお願い申し上げます。財政的・音楽的な全勢力を夏の第 5 回ヨーロッパ演奏旅行（フライブルク大聖堂での音楽奉仕、シュトゥットガルト聖パウロ教会、同ムッターハウス礼拝堂での公演など）に傾注させていただき、立派な演奏をなしとげ、皆様には、現地会場での録音のお土産をおとどけさせていただくことを念じております。

なお、第 104 回（BWV11, 52, 71, 76）と第 105 回（BWV111, 124, 170, 248/ ）定演の予定演奏曲目は、2010 年以降に必ずとりあげますので、ご期待ください。

第 103 回定期演奏会 チラシの挿画

ポッティチェリ
リ（1445 頃～1510）
「神秘の降誕」ロンドン・ナショナルギャラリー

上空では、天使の一群が舞いながら グロリア高き天なる神にを合唱し、地上では羊飼いと天使が喜びの抱擁をかわしています。中央の馬小屋に今まさに 新たのみどり子 イエスは 生まれたもうた。



バッハを 2 世紀ほどさかのぼる、イタリア盛期ルネサンスの造形ですが、アルプス北方の作曲家と当時の民衆はどんなイメージをいただいていたのでしょうか？

南牧師へ

モニカ・ヴェンガー（Monika Wenger）

今年すでに大村ご夫妻とお会いすることができたのは、私たちにあって、とても大きな喜びとなりました。お二人ともチャーミングな方々で、また恵美子さんのライフワークには私はただ感動的なというより、とても心を揺さぶられました。計画されている来年の演奏が、私たちみんなにとって、とりわけ彼女にとって、素晴らしい体験になりますように、そのドイツ旅行に込められた彼女の願いが果たされますようにと、祈っています。

カトリン・スミット（Katrin Smit）さんと私が、お二人と知り合いになれてどんなに誇らしく思っているかということ、どうぞお伝えください。

[シュトゥットガルト・パウロ教会役員]